

平成30年8月20日(月)

老球の細道432号

## スーパースターを育てるには

会津バスケットボール協会 室井 富仁

8月初旬に行われた今年のインターハイ・バスケットボールは、男子が新潟開志国際、女子は桜花学園の優勝で終了した。わが会津地区からはインターハイに出場するチームはなかったが、個人的には会津地区出身の選手が3名、会津地区以外の高校から出場していた。特に優勝した新潟開志国際には若松四中出身のT君、福島代表福島東稜には一箕中出身のS君が。女子では福島西に喜多方二中出身のKさんが出場。今回のインターハイは出場がかなわなかったが、女子の郡山商業には高田中出身のKさんがおり今後楽しみである。

今年度から地区バスケットボール協会が実施する「DC（選抜選手育成）」がスタートした。地区のスター選手たちをピックアップして、将来へのスーパースターを育成するための一貫指導システムである。とかくミニ、中学ではスター、高校になったら只の人というパターンが多いので、その逆をいく育て方をしてもらいたいものである。

ジュニアのスター選手たち、普通の選手たちがスーパースターへ変身するためには技術だけではたりない。ミニ、中学でスター選手であっても、その素晴らしさがずっと続くとは限らない。米国の雑誌『タイムアウト』にスーパースターへの資質が記されている。

①あらゆることに気づく。常に自分を正しく評価し、それをもとに短所を克服する努力を継続する。

②コーチやチームメートによる批判から学ぼうとする。「最高」の選手とは、自分がすべてを理解していないと思っているので、常に他人に学んで成長する努力を怠らない。

③内から湧き出る自信を持っていること。それは他人や周囲の状況や、ケガなどに左右されてぶれたりしないことである。

コーチは初心者への指導も大変であるが、スター選手、普通の選手をスーパースターに育てることもこれまた大変な仕事である。しかし、やりがいのある仕事でもある。上記の『タイムアウト』によると下記のことが重要だという。

①成功は忘れないこと、失敗は忘れてしまうこと、と子どもたちに教えよう（コーチにも言える）。

②評価するときは現状を評価するのではなく、上達してプロセスを評価しよう。

③コーチではなく、子どもの人生なので、その子に合ったペースで行動させよう。

④スポーツの奥深さを理解するには時間がかかる。今子どもたちが張り切っている、そのうち落ち込むときがきつとくる。その時は子どもと一緒に辛抱しよう。

⑤基本中の基本は、スポーツを楽しませること。一緒に楽しもう。スポーツを生活の中心にするのではなくて、生活、人生を楽しむための一つの手段にしよう。

⑥どれだけ子どもたちに良い評価を与えてやれるか。それによって、子どもたちがスポーツを楽しみ、どう上達、向上していくかに直接影響を与える。

スーパースターを育てるにはコーチも只のコーチでは通用しない。スーパーコーチになる努力を続けなければならない。水泳ジャパンの平井伯昌監督は五輪のメダルを狙う日本のトップスイマーたちに常々「もっと速くなって、僕を困らせてくれ」と言っているそうだ。私も言ってみたかった。いや、これからも言えるかもしれない。長生きしよう。